

# 1 段密植トマト栽培は実生苗の 1 本仕立てがよい

野菜・茶業研究所

トマトの 1 段密植栽培では、密植栽培であること、年間に複数回作付けすることから、多くの苗を必要とする。

そこで、種子コストの低減を図ることができる腋芽の挿し芽苗や 2 本仕立て苗利用における収量性を明らかにしたので紹介する。

## 【普及したい技術のポイント】

① トマトの 1 段密植栽培では、実生苗が適応性が高い。

② 腋芽の挿し芽苗や摘心による 2 本仕立て苗の利用は、収穫期間の長期化や不揃い、果実品質が低下（果実の凸凹）するケースが多くなり、収量が安定しないので適応性がやや劣る。

## 【低段密植栽培には実生苗の適応性が高い】

1 段密植栽培には、実生苗が収量、品質が優れ適応性が高い。腋芽の挿し芽苗や 2 本仕立て苗は、収穫期間の長期化や果実表面の凸凹等品質の低下（腋芽の挿し芽苗（表 1））、可販果数減少（2 本仕立て苗（表 3））が認められるケースが多くなり、収量が不安定である。腋芽の挿し芽苗で第 2 花房まで収穫する場合でも、第 1 花房の可販果収穫果数が不安定である（表 2）。

表 1 腋芽を利用した苗の収量性（2007年）

処 理	平均 収穫日	同左 偏差	果数	平均 果重
対照（実生）	10/16	2.7	2.8	129
腋芽苗 1 段除去	10/12	6.9	2.6	113
腋芽苗 1, 2 段収穫	10/14	7.3	4.3	103

単位：月/日、日、g、果/株

注）1 段除去は最初の花房を除去したもの

対照は 1 段のみ収穫

表 2 腋芽利用栽培における花房の除去と可販果収穫果数

年次	腋 芽		実生苗
	1, 2 段収穫	1 段除去	
2006 年	3.6 (0.3)	3.3	4.0
2007 年	4.3 (1.7)	2.6	2.8

単位：果/株

( ) 内は第 1 花房の可販果果数

表 3 2 本仕立て苗の収量性（2007年）

処 理	平均 収穫日	同左 偏差	果数	平均 果重
対照（1 本）	4/20	6.3	4.6	85
2 本仕立て	4/28	7.9	3.2	67

注）2 本仕立ては主枝 1 本当たり

単位：月/日、日、g、果/株

## 【苗コスト低減のために腋芽の挿し芽苗を利用する場合】

腋芽の挿し芽苗は、開花までに第 1 花房を除去しても、第 2 花房は充実せず、収量が同等か減少することから、第 1 花房に着果した果実は収穫した方がよい（表 1）。

腋芽の挿し芽苗の養成は、葉が 3～4 枚着生した腋芽をセルトレイに挿して行い、発根後、第 1 花房を残したまま定植する。セルトレイの培地は、杉バークでも利用できるが、オアシス等の育苗用成型培地を用いることで、育苗期間が根鉢の形成に左右されない。着葉数 2～3 枚の腋芽では、発根前に茎が腐敗するケースがある（データ省略）。

## 【苗コスト低減のために 2 本仕立て苗を利用する場合】

摘心による 2 本仕立て苗は、セルトレイに播種後、本葉 4～6 枚の時に子葉直上で摘心すると、2 本仕立て苗の割合が高くなり、子葉葉腋から萌芽する 2 本の腋芽が揃いやすい（データ省略）。2 本仕立て苗の育苗期間は、冬季作で 45 日程度と、実生苗より 20 日間程度長くなる。

## 【利用上の留意点】

- 実生苗、腋芽の挿し芽苗、2 本仕立て苗とも 72 穴セルトレイの利用が望ましい。
- エブ&フロー育苗を行う。